

投稿 お母さん方と、医師たちと、市民が協力

放射線から子どもを守れ ホットスポット三郷での運動

(報告者 三郷市・大場敏明、長谷川明子)

ホットスポット三郷で 埼玉県三郷市が、近隣の千葉県柏市、松戸市、流山市などと共に、「関東の中でも放射線が高いホットスポット」と言われ始めたのは5月上旬でした。すぐに放射線への感受性が高い小児の健康を心配する内科・小児科の医師達(クリニックふれあい、健和病院、三愛会病院など)、SCR Misato (放射能から子ども達を守ろう みさと: 以下SCR)や保育園や団体・個人などが集い「放射線から子供を守る三郷連絡会」を6月上旬に結成しました。

連絡会では小児科・内科の医師の立場から、健康障害について心配されるのは、放射線感受性が成人よりも数倍高い小児への影響であり、長期的に心配されるのは「内部被曝」の危険だと、勉強会、講演会、対市要請、請願運動などを展開してきました。市に対しては8月10日に「提言書」を提出し、「関東では最も強く出ている地域である認識を明確に表明し、市民の不安に誠実に答えて、子どもの未来を守る決意を表明して欲しい。」「放射線対策を本格化する必要がある、市の放射線対策室(仮称)を設置して欲しい。」「市民参加の観測体制と機敏な除染対策、測定器の貸し出しをして欲しい。」と5項目を提言してきました。

当初は市の測定結果では「問題はない」としていた三郷市も、SCRからの「学校・幼稚園などを測定してほしい」という請願・要望や、医師たちが出した同趣旨の請願、埼玉県が行った測定で、三郷市の幸房小が年間被曝量の上限である1mSvを越える可能性が明らかになったことなどで、9月に入り、県と市が共同で幸房小学校の除染をすること、三郷市に県内で初めてとなる放射線対策室を設置することを発表しました。

SCRのお母さんにインタビューこの半年間の一連の運動を「子どもを守りたい」という親の立場から、連絡会の一員として一緒に展開しているSCRmisatoの中山智子さんにインタビューしました。(長谷川明子・記)

1)SCRは、わが子を心配する見知らぬ同士が、メールやネットで情報交換を始めたことをきっかけ結成された若い母親たちの市民団体です。5月中旬に初めて顔を合わせた時は10人ほどでしたが、今では家族や友達の代表など、150人程が参加しています。2)この半年間の活動を通して、放射線量は、天候や風向きで変化をすることが分かりました。一度測って線量が低かったから安心というわけにはいきません。神戸大学の山内先生が「セシウムは水とともに移動し、土とともに堆積する。」と言われたように、同じ場所でも時間が経つと高線量になっていることもあります。2学期になる前に、小学校や公園を細かく再測定して危険な場所をまとめ、ホームページで公開しました。身近な場所を細かく、定期的に測定していくことが大切です。そして自治体が市民と一体になってデータを取るとともに、除染することが必要です。私たちが自治体と協力してゆく必要があると思っています。3)この活動をしていると、放射線への不安を個人的に抱え込まず情報交換し合い、お互いに愚痴を言い合ったり、苦労を分かち合ったりとストレスの軽減になります。体力面では大変ですが、精神面では助かっています。また、「私たちにはちょっとできないけど、活動して下さいありがとう。」とメールをいただくこともあり、そういう声も活動の力になっています。私たちの活動は「自分の子どもを守りたい。できれば隣の子どもも守ってあげたい。」という、とても小さな気持ちがいっぱい集まったものです。その小さな気持ちが集まり、大きな力になっています。もし身近に、不安を抱え込んでいるお母さんがいたら、ぜひ私たちに連絡して下さい。(SCR Misato、<http://www.infopara.com/>)